

令和6年第2回定例会一般質問通告事項

6 月 19 日	岡田広美議員（市民連合）	質問方式：一括質問方式
	<p>1 がん予防、そして少子化対策に、今、できること</p> <p>(1) 尾道市立大学の学生や接種時期を逃した尾道の高校生たちに、「岡山大学におけるHPVワクチンキャッチアップ接種の接種後、副反応調査結果の報告」をもっと知ってもらい、公費によるキャッチアップ接種が2025年3月で終了することもしっかり認識してもらって、接種の積極的な勧奨について、いかがお考えか</p> <p>(2) 尾道市でも、「ジェンダーニュートラルワクチネーション」という考えのもと、男性のHPVワクチンの助成についてや推奨を検討してはいかがか</p> <p>(3) 子宮頸がんについては、20歳代から40歳代の女性がかかりやすく、その時期に発見されることが多い疾患です。感染によって、出産が難しくなるということは、出産数が減ることによって、少子化に拍車をかけます。その時代の転出超過の多い尾道市では、少しでも出産数の減少に歯止めをかけるためにも、がんになる人を減らす努力をするために、性交渉する前に保護者を含めて、しっかりと知ってもらう教育の必要性、広報活動の必要性を強く感じておりますが、この点について、いかがお考えか</p> <p>(4) HPVワクチン接種において、メリットとデメリット（副反応）について、広く広報活動や病院での説明は、もちろん、本人の体調を見ながらの接種は、必要です。医師会や各病院と尾道市が連携して、情報共有を含んだ取り組みとしての合同研修会や意見交換会なども考えてはいかがか</p>	